



平成30年9月3日
大阪管区気象台

近畿地方の夏は記録的な高温となりました

近畿地方の夏は、7月を中心に太平洋高気圧の勢力が強まり、晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかった影響で記録的な高温となり、1946年の統計開始以来、地域平均の平均気温において、第1位の高温となりました。

1 近畿地方の夏の平均気温（平年差） 【参考】2018年夏の近畿地方の気象台の平均気温

順位 (高い方から)	平年差 ()	西暦
1位	+1.3	2018年
1位	+1.3	1994年
3位	+1.0	2013年
3位	+1.0	2010年
5位	+0.9	2004年

観測点	実況値()	平年値()	平年差()
彦根	26.4(第1位)	24.7	+1.7
京都	27.6(第1位)	26.0	+1.6
大阪	27.5(第4位)	26.6	+0.9
神戸	27.0(第3位)	26.1	+0.9
奈良	26.8(第1位)	24.9	+1.9
和歌山	27.0(第2位)	26.0	+1.0

近畿地方のデータは、長期間観測している11地点（彦根、京都、舞鶴、大阪、神戸、豊岡、姫路、洲本、奈良、和歌山、潮岬）の平年差を平均した値です。

なお、2018年の値は速報値です。そのため、後日変更となる場合があります。

各地点の統計開始以来の順位を表しています。

統計開始年：彦根（1894年） 京都（1881年） 大阪（1883年） 神戸（1897年）
奈良（1953年） 和歌山（1880年）

2 近畿地方における夏の天候の特徴

6月のはじめと終わりは、高気圧に覆われて晴れましたが、中旬を中心に本州南岸に停滞した梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

7月のはじめは、台風第7号や梅雨前線の活動が活発となった影響で、広い範囲で大雨となり、大きな被害の発生した所がありました（平成30年7月豪雨）。その後、平年より早く梅雨明けし、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強く、よく晴れて気温が顕著に高くなる日が多くなりました。

8月は、高気圧に覆われて晴れた日が多く気温が高くなりました。下旬は台風第20号の影響で大荒れの天気となった所がありました。

<近畿地方の梅雨入り・梅雨明け> 梅雨入り：6月5日ごろ（昨年より15日早く平年より2日早い）

梅雨明け：7月9日ごろ（昨年より4日早く平年より12日早い）

問合せ先：気象防災部 地球環境・海洋課 季節予報担当
電話 06-6949-6653 FAX 06-6949-6160